

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
中央工科デザイン専門学校		平成10年3月20日	中島 利郎		〒371-0844 群馬県前橋市古市町1-48-1 (電話) 027-255-3544		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人有坂中央学園		昭和40年12月24日	中島 利郎		〒371-0844 群馬県前橋市古市町1-49-4 (電話) 027-256-7000		
目的	商品パッケージ、印刷、出版(電子書籍含)、広告、映像、Webに関わるデザイン分野等で活躍できる人材の育成。様々なデジタルデバイスに対応したデザイン技術や映像処理ができる技術を身につけ、実学を通して企業のニーズに適した企画提案のできる人材を育成をする						
分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士	
工業	工業専門課程		デジタルデザイン学科		平成19年文部科学省告示第20号		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1860	390	690	1440	0	0
単位時間							
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数		総教員数
80人 の内数		41人 の内数		2人 の内数	4人 の内数		6人 の内数
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 受講態度及び定期試験、提出物等を総合的に判断し、評価する。		
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:8月9日～9月8日 ■冬季:12月16日～1月8日 ■学年末:3月31日			卒業・進級条件	所定の修業年限以上在学し、課程を修了したもの		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 随時連絡を取り、面談指導			課外活動	■課外活動の種類 部活動・ボランティア活動 ■サークル活動: 有		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 印刷・デザイン業界・企画開発部 インターネット事業部等 ■就職率 ^{※1} : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 96.6 % ■その他 未就職者は家事手伝い (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報)			主な資格・検定等	・色彩検定(1級～3級) ・Illustratorクリエイター能力認定(スタンダード・エキスパート) ・Photoshopクリエイター能力認定(スタンダード・エキスパート) ・ウェブデザイン技能検定(3級・2級) ・情報デザイン試験(初級)		
中途退学の現状	■中途退学者 1名 平成28年4月1日時点において 在学者 55名 平成29年3月31日時点において 在学者 54名 ■中途退学の主な理由 進路変更のため ■中退防止のための取組 個人面談、クラスアンケートにより学生とコミュニケーションを取り、随時対応している。			中退率	1.8 % (平成28年4月1日入学者を含む) (平成29年3月31日卒業者を含む)		
ホームページ	URL: http://www.chuo.ac.jp/cit/						

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本学科は職業実践の推進を図ることを目的に、中央工科デザイン専門学校と企業等が有する知識・技術・技能を統合し、産学の連携を推進する事により、人材の専門性を向上させ、地域の産業振興や社会貢献を図り、実務実践能力の育成に資することを目的とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

委員会は学校長の統括のもとに、カリキュラム委員会の下部に属し、本校の教育体制及び教育制度の改善・整備に関する実現方策等の検討を行い、取りまとめると共に、次に掲げる事項について審議及び連絡調整を行う。

- (1)授業科目の開設に関する事項
- (2)授業内容に関する事項
- (3)授業方法の改善・工夫に関する事項
- (4)教員の実務研修に関する事項
- (5)学校関係者評価に関する事項
- (6)その他学科及び専門学校の教育に関する事項

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年8月23日現在

名前	所属	任期	種別
山崎 次郎太	(公財)日本パッケージデザイン協会 事務局長	2017年4月1日～ 2018年3月31日	①
富沢 充芳	朝日印刷工業株式会社		③
中島 利郎	中央工科デザイン専門学校 校長		
五十部 昌克	中央工科デザイン専門学校 副校長		
高麗 淳子	中央工科デザイン専門学校 デジタルデザイン学科長		
高橋 由美	中央工科デザイン専門学校 デジタルデザイン学科		
柴田 智宏	中央工科デザイン専門学校 教務事務		
笠原 文男	中央カレッジグループ 教育本部副本部長		
金田 行正	中央カレッジグループ 就職指導センター所長		
篠原 賢二	中央カレッジグループ 広報管理部 部長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回

(開催日時)

平成29年度 第1回 平成29年8月 3日 18:00～19:00開催済み
平成29年度 第2回 平成30年2月22日 18:00～19:00開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

・教育課程編成委員会で議論された内容、提案された事項(作品鑑賞の授業、カリキュラム構成の変更など)を本校カリキュラム委員会にて検討し、実行可能なものは、随時反映していく。
・学生の興味関心を高めるための意識づけをどのように行っていくのか検討すると共に、委員会の方を通じて講師派遣をお願いしたり、特別講義・視察も実施する。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

専修学校の教育を施すにふさわしい授業科目を開設し、学生の指導や学修成果の評価等に関する連携体制を確保して、最新の業務を的確に反映した教育を行なう。企業等が学習活動に関わり、学習者と企業等が相互理解を深められる学習機会とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

企業と協定を結び、シラバス(講義概要 目的・指導方法・評価方法)に学習内容を掲載し、指導内容を明確にして授業を行う。学生の理解度を把握するために、随時アンケート・テストを実施する。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
DDゼミⅠ・Ⅲ	朝日印刷工業㈱の印刷工場、オフィスを見学し、印刷会社における仕事内容、印刷工程を学習する。デザイン業界の仕事内容が具体的にわかることで、日々の授業で学習していることの重要性を再確認し、意欲の向上を図る。また、授業の最後にテストを行い、学習した内容の習熟度を確認する。	朝日印刷工業株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

実務に関する知識・技術・技能の向上と指導力の向上を目指した研修を実施する。また、階層別研修やOJTによる組織的な人材育成の取組を支援するとともに、教員の学ぶ意欲や向上心を喚起する魅力ある研修を実施し、職員の自己啓発意欲を高める。

(2) 研修等の実績

- ① 専攻分野における実務に関する研修等
- ・Web関連授業の改善のため、2016年8月に㈱マックスラインの研修担当を講師に、Wordpressの構築方法と、google検索エンジン最適化について受講した。SEOについて、検索上位に上るために必要なサイトの構築方法について学習した。
- ② 指導力の修得・向上のための研修等
- ・2016年8月各テーマ(危機管理、学級経営、留学生対応)の発表を聞き、学生指導に反映させる研修を受講。
 - ・2016年12月グループ各校から今年度の実践事例を聞き、学生指導の参考にする研修を受講。
 - ・2017年3月ハラスメント等の規定について、グループの顧問弁護士を招き、防止策や発生時の対処方法について研修。

(3) 研修等の計画

- ① 専攻分野における実務に関する研修等
- ・2017年7月商品PR手法講座。商品PRにおいて、メディアに取り上げてもらうための、効果的な手法について学ぶ。
- ② 指導力の修得・向上のための研修等
- ・2017年8月教育者向けの教育コーチング研修
 - ・コマンラバス作成の基礎知識を学ぶインストラクショナルデザイン研修

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

各学校が、保護者や学校関係者による自己評価を行い、その結果の公表・説明を行うことで、適切に説明責任を果たす。保護者や地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	専門分野の特性、学校の理念、目的、育成人材像、将来構想
(2) 学校運営	目的に沿った運営方針、事業計画、規定、コンプライアンス、情報公開
(3) 教育活動	教育課程の編成・実施方針、工夫、開発、外部評価、判定基準
(4) 学修成果	進学率、就職率、資格取得率向上、退学率低減
(5) 学生支援	経済支援体制、健康管理、生活環境支援、卒業生支援、職業教育取組
(6) 教育環境	施設設備の整備、教育体制の整備、防災体制の整備
(7) 学生の受入れ募集	募集活動、教育成果の伝達
(8) 財務	財政基盤、予算収支計画、会計監査、財務情報公開
(9) 法令等の遵守	設置基準の遵守、適正な運営、問題点の改善、自己評価公開
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献活動、ボランティア活動、公開講座、教育訓練
(11) 国際交流	留学生の受入・派遣、国内外での評価

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

- ・社会のニーズを踏まえた、新たな知識・技術を提供する機会を拡充すると共に、学生個々の能力に応じた個別指導や効率的な補習などを実施していく。
- ・生徒の基礎学力向上の取り組みを図っていく。
- ・図書室にポートフォリオやDVDなどの学生作品を置くようにした。今後随時作品数を増やしていく予定。
- ・卒業生へ就業状況のアンケートを実施し、得られた情報をカリキュラム等に反映していく。
- ・学園祭、卒業作品展の作品数を増やし、地域や企業の方にもっと見てもらえるよう企画を検討する。たくさんの方に作品を見てもらうことで、学生の作品制作へのモチベーションや質の向上に繋げたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年8月23日現在

名前	所属	任期	種別
松本 州史	東京理器株式会社 代表取締役	2017年4月1日～ 2018年3月31日	企業等委員
森井 勝利	群馬漫画連盟 会長		企業等委員
宮野 知代	デザインスタジオ絵組 代表		企業等委員
矢島 達也	クシダ工業株式会社		企業等委員
石川 直哉	中央工科デザイン専門学校 卒業生		卒業生
大島 陽子	中央工科デザイン専門学校 保護者会 会長		保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例) 企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

ホームページにて公開(URL: <http://www.chuo.ac.jp/cit/syokugyoujissen.html>)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本学は、情報公開等の推進を進め、国民や社会に対する説明責任を重視した、社会に開かれた専門学校を目指しています。そのため、教育・研究、組織・運営、人事、財務など本学の諸活動全般に関する情報を、社会に対し積極的に提供します。情報の提供は、本学ホームページへの掲載及びその他冊子などの発行、閲覧の申し出により行います。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の教育・人材育成の目標、指導計画、経営方針
(2) 各学科等の教育	入学者数、収容定員、在学者数、カリキュラム、進級・卒業要件
(3) 教職員	教職員数、組織、教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組、実習実技等の取組、就職支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動
(6) 学生の生活支援	中途退学、心身の健康、留学生支援、障害者支援
(7) 学生納付金・修学支援	金額、納入時期、経済的支援措置、
(8) 学校の財務	事業報告、貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価、改善方策
(10) 国際連携の状況	留学生の受入、外国の学校との交流
(11) その他	厚生施設の案内

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

授業科目等の概要

(工業専門課程デジタルデザイン学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			Webデザイン	Webコンテンツ作成に必要なHTML/CSSの知識を学び、基礎的なHTML/CSSのコーディング技術の習得および資格取得を目的とする。	1 前	30	1			○	○				
○			パソコン実習	Mac版 Office 2016 (Excel、Word、PowerPoint、Outlook) の基本操作になれる。	1 前	30	1			○	○				
○			ビジネス実務	一般常識や心構え、ビジネスマナーなどの知識を得ることを目的とする。	2 前	30	1	○			○				
○			社会常識基礎	大人として必要な常識や心構え、ビジネスマナー、人間関係を築くための意思伝達スキルの習得を目的とする。	1 前	30	1	○			○				
○			DD学科卒業制作・研究Ⅰ	テーマ設定から作品の発表・展示までを行い、制作過程を通じて問題解決能力を養うことを目的とする。	2 前	60	2			○	○				
○			DD学科卒業制作・研究Ⅱ	テーマ設定から作品の発表・展示までを行い、制作過程を通じて問題解決能力を養うことを目的とする。	2 後	60	2			○	○				
○			DDゼミⅠ	デジタルデザイン学科のゼミは、検定対策及びコンテストの作品制作・ポートフォリオなど個別対策を行う。	1 前	60	2		○		○				○
○			DDゼミⅡ	デジタルデザイン学科のゼミは、検定対策及びコンテストの作品制作・ポートフォリオなど個別対策を行う。	1 後	60	2		○		○				
合計			8科目		360単位時間 (12		単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、受講態度及び演習課題、出席率、定期考査を総合的に判断する。尚、卒業基準は①年間換算欠席日数が20日以下の者。②卒業基準の鑑定試験に合格した者。③全必修科目評定合格者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程デジタルデザイン学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			DDゼミⅢ	デジタルデザイン学科のゼミは、検定対策及びコンテストの作品制作・ポートフォリオなど個別対策を行う。	2 前	60	2	○			○				○
○			DDゼミⅣ	デジタルデザイン学科のゼミは、検定対策及びコンテストの作品制作・ポートフォリオなど個別対策を行う。	2 後	60	2	○			○				
○			DTP概論Ⅰ	デザインツールの基本的な使用方法や、次世代デバイスに対応するデジタルパブリッシングの手法を学ぶ。	1 前	30	1	○			○				
○			Illustrator 実習(Mac)Ⅰ	イラストレーターの基本的なオペレーションを中心に2Dデザインの基本を習得する。	1 前	60	2				○	○			
○			Illustrator 実習(Mac)Ⅱ	イラストレーターの応用的なオペレーションを中心にデザイナーとしての実践的なスキルを身につける。	1 後	60	2				○	○			
○			Photoshop実 習(Mac)Ⅰ	Photoshopの基本操作を学習し、色調補正やペイント系ツールの使い方、画像合成技術など、幅広い知識・技術を習得する。	1 前	30	1				○	○			
○			Photoshop実 習(Mac)Ⅱ	Photoshopクリエイター能力認定試験スタンダード向けの学習を行うと共に、画像処理技術を向上させることを目的とする。	1 後	30	1				○	○			
○			Webデザイン 応用Ⅰ	Web上の文書の構造を記述するHTMLと見た目・装飾を記述するCSSの基本を理解し、Webサイトを制作する技術を身につける。	1 前	60	2				○	○			
合計				8科目		390単位時間 (13	単位)		

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、受講態度及び演習課題、出席率、定期考査を総合的に判断する。尚、卒業基準は①年間換算欠席日数が20日以下の者。②卒業基準の鑑定試験に合格した者。③全必修科目評定合格者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程デジタルデザイン学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			アイデア発想法	HTML5・CSS・Javascriptを用いて、オリジナルスマートフォンアプリケーションを開発する。	1 前	30	1			○	○				
○			映像写真技術	デジタル写真を撮影しながらカメラの特性や構図などを学習し、仕事に活かす知識を得ることを目的とする。	2 前	30	1			○	○				
○			広告マネジメントⅠ	マーケティングからSEOなど様々な視点からセールスプロモーションに関わるマネジメント力を身につける。	1 前	30	1	○			○				
○			広告マネジメントⅡ	マーケティングからSEOなど様々な視点からセールスプロモーションに関わるマネジメント力をより深く身につける。	2 前	30	1	○			○				
○			コピー&シナリオⅠ	広告やウェブなど、商品や店舗を説明する文章を考える。どのように書くと売れるのか、どうすれば価値が伝わるのか、ポイントを押さえた学習を行う。	2 前	30	1	○			○				
○			コピー&シナリオⅡ	広告やウェブなど、商品や店舗を説明する文章を考える。どのように書くと売れるのか、どうすれば価値が伝わるのか、ポイントを押さえた学習を行う。	2 後	30	1	○			○				
○			コミュニケーションデザインⅠ	プロモーションやブランディングなどの広告展開、商品開発など、主要なコンテスト等を活用しながら実践的な考え方を学習する。	1 前	60	2			○	○				
○			コミュニケーションデザインⅡ	プロモーションやブランディングなどの広告展開、商品開発など、主要なコンテスト等を活用しながら実践的な考え方を学習する。	1 後	60	2			○	○				
合計			8科目		300単位時間 (10		単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、受講態度及び演習課題、出席率、定期考査を総合的に判断する。尚、卒業基準は①年間換算欠席日数が20日以下の者。②卒業基準の鑑定試験に合格した者。③全必修科目評定合格者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程デジタルデザイン学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			コミュニケーションデザインⅢ	プロモーションやブランディングなどの広告展開、商品開発など、主要なコンテスト等を活用しながら実践的な考え方をより深く学習する。	2 前	60	2	○			○				
○			コミュニケーションデザインⅣ	プロモーションやブランディングなどの広告展開、商品開発など、主要なコンテスト等を活用しながら実践的な考え方をより深く学習する。	2 後	60	2	○			○				
○			ポートフォリオ実習Ⅰ	デザイン・広告・出版・印刷業界への就職には必要不可欠なポートフォリオ（作品集）の制作を業界研究を中心に行う。	1 後	30	1	○			○				
○			ポートフォリオ実習Ⅱ	デザイン・広告・出版・印刷業界への就職には必要不可欠なポートフォリオ（作品集）の制作を業界研究を中心に行う。	2 前	30	1	○			○				
○			色彩基礎	色の基本的な体系理論をテキストや配色カードを使って理解し、色彩の実用価値や効果を色彩検定3級をめざし学習する。	1 前	60	2	○			○				
○			編集概論Ⅰ	雑誌等の編集者としての基本的な考え方、知識をしっかりと身に付けることを目的とする。	1 前	30	1	○			○				
○			編集概論Ⅱ	雑誌等の編集者としての基本的な考え方、知識をしっかりと身に付けることを目的とする。	1 後	30	1	○			○				
		○	3DCG実習Ⅰ	Autodesk Mayaを利用した3DCGモデル制作の基本フローを学習する。	1 前	30	1				○	○			
合計				8科目	330単位時間 (11 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、受講態度及び演習課題、出席率、定期考査を総合的に判断する。尚、卒業基準は①年間換算欠席日数が20日以下の者。②卒業基準の鑑定試験に合格した者。③全必修科目評定合格者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程デジタルデザイン学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	AfterEffects実習	映像編集・合成ソフトAfterEffectsを使用し、動画作品の制作に必要とされる能力を養う。	1前	30	1			○	○				
		○	DTP概論Ⅱ	デザインツールの応用的な使用方法や、次世代デバイスに対応するデジタルパブリッシングの手法を学ぶ。	2後	30	1	○			○				
		○	DTP概論Ⅲ	デザインツールの応用的な使用方法や、次世代デバイスに対応するデジタルパブリッシングの手法をより深く学ぶ。	2後	30	1	○			○				
		○	Illustrator 応用実習 (Mac)	Illustratorの応用やinDesignの操作を行うことで、デザインへの知識と技術の幅を広げることを目的とする。	1後	30	1			○	○				
		○	MACデザイン 実習Ⅰ	Illustratorを通してグラフィック・デザインの基本的なオペレーションの習得を目標とする。	1前	60	2			○	○				
		○	MACデザイン 実習Ⅱ	デザイナーとしての実践的なスキルや考え方を習得する。補足的にInDesignの知識や技術も学習する。	2後	60	2			○	○				
		○	MACデザイン 実習Ⅲ	デザイナーとしての実践的なスキルや考え方を習得する。補足的にInDesignの知識や技術も学習する。	2後	60	2			○	○				
		○	Photoshop応 用実習 (Mac)	Photoshopの応用的なオペレーションを中心にデザイナーとしての実践的なスキルを身につける。	2前	30	1			○	○				
合計			8科目		330単位時間 (11		単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、受講態度及び演習課題、出席率、定期考査を総合的に判断する。尚、卒業基準は①年間換算欠席日数が20日以下の者。②卒業基準の鑑定試験に合格した者。③全必修科目評定合格者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程デジタルデザイン学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	Webデザイン 応用Ⅱ	WEBサイトを制作するためのアプリケーションやデザインを構築する方法を学び、htmlやwordpressでサイトを作成する技術を身につける。	2 前	60	2			○	○				
		○	Webデザイン 応用Ⅲ	WEBサイトを制作するためのアプリケーションやデザインを構築する方法を学び、htmlやwordpressでサイトを作成する技術を身につける。	2 後	60	2			○	○				
		○	映像編集 (AfterEffects)Ⅰ	映像編集・合成ソフトAfterEffectsを使い、モーショングラフィックス・VFXの基礎を学ぶ。	2 前	60	2			○	○				
		○	映像編集 (AfterEffects)Ⅱ	PV等のオリジナル映像制作を行い、表現手法や視覚表現力の向上をめざす。	2 後	60	2			○	○				
		○	総合デザイン 実習Ⅰ	Macの基本的なオペレーションを中心にイラストレーターやパッケージデザインの基礎を習得する。	1 前	60	2			○	○				
		○	総合デザイン 実習Ⅱ	Macの基本的なオペレーションを中心にイラストレーターやパッケージデザインの基礎を習得する。	1 後	60	2			○	○				
		○	総合デザイン 実習Ⅲ	自分のイメージやスケッチを自在にパソコン上に表現できる力を養う。デザインする力を身につけ、デザイナーとしての考え方を学ぶ。	2 前	60	2			○	○				
		○	デザインデッサン実習	デザインや造形の基礎となるデッサンの基本を学び、細やかな表現力と構図のとり方を身につけることを目的とする。	1 後	60	2			○	○				
合計				8科目	480単位時間 (16 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、受講態度及び演習課題、出席率、定期考査を総合的に判断する。尚、卒業基準は①年間換算欠席日数が20日以下の者。②卒業基準の鑑定試験に合格した者。③全必修科目評定合格者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程デジタルデザイン学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	プロダクトデザイン企画Ⅰ	製品におけるデザインの果たす役割を理解し、ものづくりに対して幅広い視点を持って取り組む姿勢の必要性を学習する。	1前	60	2	○		○					
		○	プロダクトデザイン企画Ⅱ	製品におけるデザインの果たす役割を理解し、ものづくりの過程と奥深さ、企画立案とコンセプトの重要性を学習する。	2後	60	2	○		○					
		○	映像制作・編集実習Ⅰ	映像の歴史や理論を学び、映像を制作する上での考え方や決まり事などを学ぶ。映像制作の手法（撮影・編集・仕上）についても学習する。	1前	60	2			○	○				
		○	映像制作・編集実習Ⅱ	映像製作を学び、実作的訓練を行う。特に編集技術に関しては複数のソフトの特徴を理解し、クオリティの高い作品制作を学ぶ。	2後	60	2			○	○				
		○	色彩応用	実践的な色彩配色を学び、色彩検定2級取得を目的とする。	1後	30	1	○		○					
		○	造形実習	様々なアナログの表現手法で作品制作を行うことで、自らの発想を具現化する学習を行う。	2後	60	2			○	○				
合計					6科目	330単位時間 (11	単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、受講態度及び演習課題、出席率、定期考査を総合的に判断する。尚、卒業基準は①年間換算欠席日数が20日以下の者。②卒業基準の鑑定試験に合格した者。③全必修科目評定合格者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。